

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 先端科学技術体験センター施設管理運営委託料

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局文化伝承課教育文化係 電話番号：058-272-1111(内 3578)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 160,000 千円 (前年度予算額：160,213 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	160,213	0	0	57	0	0	85	0	160,071
要求額	160,000	0	0	39	0	0	53	0	159,908
決定額	160,000	0	0	39	0	0	53	0	159,908

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 先端科学技術をテーマとした多彩な科学技術体験を通じて、21世紀を担う青少年の科学への興味を喚起する。
- 知性豊かな創造性に満ちた人材の育成を図る。
- 広く県民に生涯学習の場を提供する。

上記の内容を実現するため、平成11年に先端科学技術体験センターが開設し、平成11年度～平成17年度は、公益財団法人岐阜県研究開発財団が県の委託を受け運営を行った。平成18年度からは指定管理者制度を導入し、特定者指名により(指定期間5年間)、引き続き同財団が運営を行った。

平成22年度の指定管理任期の満了に伴い、平成23年度からは公募により選定された民間事業者による運営(指定期間5年間)が行われ、現在は当該事業者が2期目(平成28年度から令和2年度)の事業を運営している。

今回は、次期(令和3年度から令和7年度)の先端科学技術体験センター管理運営業務の1年目の委託料を要求するものである。

(2) 事業内容

先端科学技術体験センターの施設管理運営委託料

(3) 県負担・補助率の考え方

県は、令和3年度から令和7年度までについて、公募により選定される民間事業者を指定管理者として指定するため、県が負担することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	160,000	先端科学技術体験センターの施設管理運営委託料
合計	160,000	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 - 先端科学技術をテーマとした多彩な科学技術体験を通じて、21世紀を担う青少年の科学への興味を喚起する。
 - 知性豊かな創造性に満ちた人材の育成を図る。
 - 広く県民に生涯学習の場を提供する。
- 上記内容を実現するため、各種ワークショップ・イベント等を実施するとともに、外部連携強化による新たなネットワークの構築を行っていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
年間入館者数（人）	(H)	103,920	103,912	102,105	100,000	102.1%
		(H29)	(H30)	(R1)	(R3)	
年間学校利用数（校）	(H)	103	89	93	120	77.5%
		(H29)	(H30)	(R1)	(R3)	

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - 1 常設事業
 - (1) サイエンスショー 利用人数 22,586 人
 - (2) スペシャルワークショップ 利用人数 24,237 人 等
 - 2 企画事業
 - (1) チャレンジワークショップ 利用人数 3,315 人
 - (2) 出張ワークショップ 利用数 31 校 2,503 人 等

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

来館者アンケートや学校関係者との懇談から、センター利用者のニーズを把握し、これを講座等の事業メニューに反映することにより利用者の満足度も高水準で推移している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	全国的にも大変珍しい体験型に特化した科学館であり、学校で実施が難しい体験授業の現場としての機能も有している。また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）やSPP（講座型学習活動支援）事業の支援機関としてのノウハウや経験も有した施設であり、地域になくてはならない施設である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	指定管理初年度である平成23年度以降、コンスタントに年間入館者数（実績）を残しており、広報活動の成果が上がっている。この他、外部連携等も意欲的に行われている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	岐阜県先端科学技術体験センター指定管理評価員会議において、令和元年度の事業の実施について、同評価員から協定書等に定める水準を上回る管理運営がされていると評価されており、県としても優れた管理運営がされており、かつ十分な実績・成果を上げていると評価している。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 1. 施設設備の老朽化に伴う修繕や機器等更新 2. 急速に進化する科学技術に対応できるメニュー開発
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 施設設備の老朽化に伴う修繕や機器等更新について、計画的に実施する。また、引き続き、利用者ニーズを把握することにより、魅力あるメニューの開発やプログラムの構成に努めるとともに、効率的なPR活動を行うことにより、誘客・利用促進を図る。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	